

帳、丑寅方迫障子、立壺厨子一雙、或立中持一雙、

〔平家物語^六〕紅葉の事

あんげんの比ほひ、御かたがひの行幸の有しに、略中や、えんかうにおよんで、程とをく人のさけぶこゑしけり、ぐぶの人々はき、も付られず、主上倉高はきこしめして、たゞ今さけぶは何ものぞ、あれ見てまいれとおほせければ、うへぶしゑたる殿上人、上日の者におほせてたづぬれば、あるつじにあやしの女のわらはの、なかもちのふたさげたるが、なくにてぞ有ける、

○按ズルニ、なかもちハ中持ナルカ、長持ナルカ詳ナラズ、暫ラク此ニ載ス、

〔吾妻鏡^十〕文治六年元建久九月十五日丙寅、來月依可有御上洛、御出立間事等被經沙汰、略中

御京上間奉行事略中

一御中持事 堀藤次親家

〔吾妻鏡^{十一}〕建久二年十一月廿二日丁卯、多好方等欲歸洛之間、自政所賜餞物、略中

公文所送文云 好方給略中なかもち一合、内お、い、だいゆたんあり、

〔吾妻鏡^{五十一}〕弘長三年八月九日丙辰、將軍家宗尊親王御上洛事、有其沙汰、來十月三日御進發必然

之間、路次供奉人已下事被定之、略中

一御中持 木工權頭親家 進三郎左衛門尉宗長 長次郎左衛門尉義連

簞笥

〔書言字考節用集^七〕器財簞笥タンス、本朝俗、謂書櫛爲簞笥、

〔和漢三才圖會^{三十二}〕家飾具厨子 厨除備俗作厨字非也、一名豎櫃俗云太、今用簞笥字誤

按、書厨、茶厨、衣厨之數品不枚舉焉、晉顧愷之以一厨畫寄桓玄家者是也、略中

衣厨 今云小袖簞子、近世多用抽匣、其出納最捷便也、而名簞子或用簞者甚非、

〔調度口傳〕婚禮道具